

宇都宮市立宝木小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感じることもある」の肯定割合は、県平均より4ポイント上回っている。普段から、児童の興味関心を大切に、指導に生かす工夫をしている成果の表れと考えられる。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定割合は、県平均より6.6ポイント、「クラスは発言しやすい雰囲気である」は2.8ポイント、「自分の行動や発言に自信をもっている」は4.4ポイント上回っている。結果だけではなく学習過程や個人の頑張り、多様な考えの良さを認めてきた成果の表れと考えられる。

●「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定割合は県平均より10.7ポイント、「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」は10.1ポイント、「授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いている」は、10.5ポイント下回っている。ペア学習やグループ学習で話し合う機会を増やしたり、授業のめあてを明確化して学習で得たことを振り返ったりするなど、指導の工夫を図っていきたい。

●「家で学校の授業を予習している」の肯定割合は、県平均より7.1ポイント、「家で学校の授業の復習をしている」の肯定割合は12.2ポイント、「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は16.8ポイント下回っている。宝木小「家庭学習の進め方」などを活用して、予習・復習や自主学習の例を挙げ、宿題以外にも自分から学習することを見つけられるよう、保護者と連携して指導していきたい。